

議員提出議案第3号

子ども・子育て支援、地域性を考慮し二宮町営袖が浦プールの再開を求める決議について

上記の議案を、別紙のとおり二宮町議会会議規則第13条第2項の規定に基づき提出する。

平成29年12月1日

二宮町議会議長 二見泰弘 殿

提出者	二宮町議会議員	前田憲一郎
賛成者	同	桑原英俊
同	同	二宮節子
同	同	善波宣雄
同	同	野地洋正
同	同	渡辺訓任
同	同	一石洋子
同	同	柳川 駅司

子ども・子育て支援、地域性を考慮し二宮町菅袖が浦プールの再開を求める決議

町が、経費削減のためとして平成28年に袖が浦プールを休業してから、ふた夏が過ぎた。それまで利用していた幼稚園や児童養護施設、地域住民など幅広い方々から再開を望む声が上がっている。海が見える景観を生かした観光拠点の一貫としての資源であった袖が浦プールの可能性について何の創造力も発揮していない。袖が浦プール休業後、近隣の幼稚園や児童養護施設では、所有または借用のバスを使って山西プールや大磯町のプールまで子どもたちを移動させ、水泳・水遊びをさせている。往復の時間がかかるため、プールへ行く機会やプールで過ごす時間を減らすような事態が生じている。また、バスが手配できない園では、やむを得ずビニールプールで水遊びをさせており、水泳はできないという状況にある。

地域住民からは、子ども達だけで安心安全に行くことのできる水遊びの場がなくなり困っているとの声が上がっている。泳ぐ力は特に海辺の町に住む子どもたちにとって重要な生きる力である。二宮学童保育所においても同様の弊害が生じている。

二宮町議会は、平成27年度に総務建設経済常任委員会の継続調査報告において、「利用者増を図ることができないのであれば廃止も検討すべき」と町に提言したが、休業に至るまで利用者を増やす施策は実施されていない。

平成27年4月から施行された子ども・子育て支援新制度においては、市町村が新制度の主体として、当該地域内における幼児教育・保育に係るニーズを把握、「市町村子ども・子育て支援事業計画」を策定した上で、当該計画に基づいて、認定こども園、幼稚園、保育所、児童養護施設などや地域のニーズに応えるための体制を整備するものとされている。

袖が浦プールの休業とそれに伴う水泳時間の縮小などの現状は、子ども・子育て支援新制度に謳われている「ニーズに応えるための体制を整備する」という事項に相反するものであると指摘せざるを得ない。

町は「子ども子育て支援事業計画」で「地域の子ども・子育て支援の充実」を、さらに町の重点施策のひとつに子育て支援を掲げている。学校プールが設置されていないという点を考慮するならば、水泳教育の充実、子育て支援、地域性などの諸点から見て、袖が浦プールは必要である。町は地域住民や関係者の声を広く汲み上げ、その再開について早急かつ真摯に取り組むことを強く求めるものである。

以上、決議する。

平成29年12月1日

二宮町議会

平成25年度 決算審査

公共施設の一元化や、 都市マスタープラン策定に議論白熱 地域公共交通の検証を求める

平成26年9月19日から延べ4日間にわたり、決算審査特別委員会を開催し、慎重審議を行った。

決算審査特別委員会の構成は次のとおり

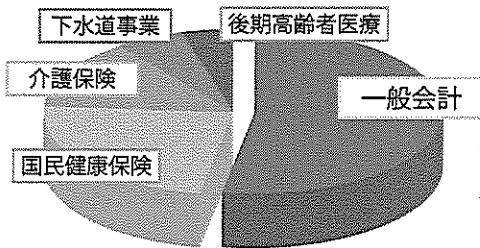
- ◎委員長 小笠原陶子
- 副委員長 添田孝司
- ▽委員 杉崎俊雄
- 脇 正文 根岸ゆき子
- 近藤行宏 二見泰弘

◆委員会結果

協議員が一般会計に反対討論。添田副委員長が全会計に賛成討論を行った。一般会計は1対5、4特別会計は全員賛成で認定された。

(単位は円)

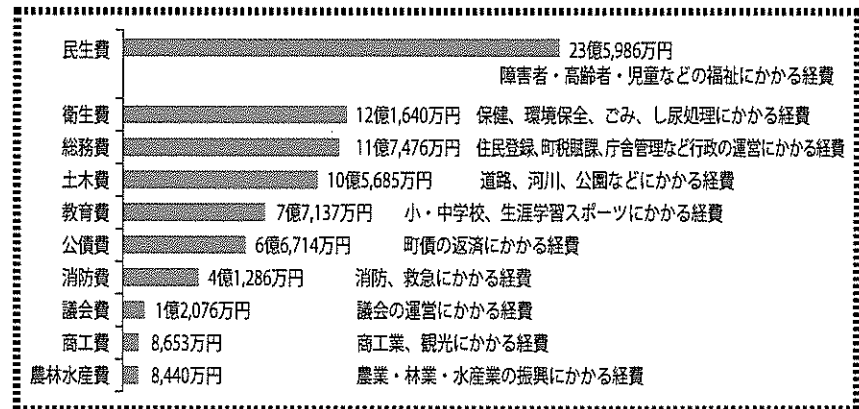
会計名	歳入	歳出
一般会計	82億3,087万	79億5,093万
特別会計		
国民健康保険	36億 462万	35億1,387万
介護保険	21億 838万	20億2,612万
下水道事業	9億 881万	8億9,398万
後期高齢者医療	6億7,800万	6億5,210万



一般会計の

歳入82億3,087万円に対して
歳出79億5,093万円の使いみち▶▶▶

小動物園からシバザクラ園に リニューアル (吾妻山公園)



審査 意見

各課の審査ごとに、委員から多くの意見や要望が出され、それを精査し審査意見として町に報告をする。町は今後の事業執行にあたり検討事項とし、努力することになる。

一元化を進められたい。

④都市マスタープラン策定は、町民や議会と意見交換を行いながら進められたい。

⑤一次予防事業については、その重要性を町民にアピールされ、健康寿命や医療費抑制を図られたい。

⑥コミュニティバス及びデマンドタクシーの利用者が少ない現状を改善すべく、抜本的な見直しを含め、早急な対策を講じられたい。

⑦子育て支援事業の中心をなす保健センターは、利用者の満足が得られるよう早急な修繕により、延命化を図られたい。

③公共施設は、各課横断的な施設管理と運営により、施設の最大利用と経費の適正化に向け、さらに一

⑧袖が浦プールは、有料利用者が少ないまま推移しているの

一般質問

根岸ゆき子
議員



問

「町民参加」を核とした
政策反映へのシステム作れ

答

全てにおいて透明性と公平性を
しっかりと重視する

Q 町の主役は町民一人ひとりである、と述べている村田町長から市民自治への捉え方についてメッセージが必要と考える。

A 市民自らが自分たちの生活をする中で課題を捉えどうしていくか、意思と責任を持って行動していくことだ。町長として私がリーダーシップをとるのはおこがましい。

町民が主役の町づくりを進める基本は情報公開であり、それを基に町の将来について議論し、優先順位をつけて実行したい。

Q 町民参加活動推進条例には町長の町民参加への思いが明記されていると捉えてよいのか。

A 根岸議員は「思い入れの深い条例」と言うがそれは誤解だ。今回町民活動推進委員会に①町民

活動の推進方法②補助金のあり方③サポートセンターの運営及び支援のあり方の3点を諮問した。今の時代のニーズに合っていないと感じていることだ。来年度予算に反映するつもりで年内の答申をお願いしている。

Q まちづくり移動町長室の目的と効果を伺う。

A 前年までやっていたふれあいトーク等との大きな違いは、事前にテーマをあげていただく。的を絞った議論をしたい。

Q 予算編成過程で町民と意見交換したいと述べていたが平成28年度予算から検討していることがあるか。

A 予算編成過程における予算査定状況について町のホームページを通じて公表する。透明性の向上と公平性の確保を

行したい。町が予算編成過程に町民の声をいれるシステムについては課題と受け止め、次年度に考えていきたい。

Q 町民の受け皿として機構改革でまちづくり協働課のような設置が必要ではないか。

A 効率的でスリム化した組織にするのが大前提であり大きく広げていく考えは一切ない。特化した課の設置にイエス・ノーを言える状況にはない。



町民サポートセンター
課題は駐車場、会議室、相談機能等

常任委員会 活動報告

町長へ提言書を提出

「公共施設は資産か？負債か？」

「作ろう！
総合型地域スポーツクラブ」

総務建設経済常任委員会
「町公共施設について」
を課題として調査検討を行い提言書を提出した。

《提言背景》
公共施設の維持管理および更新に係る投資予算の確保は難しく、平成25年に公表した「二宮町公共施設再配置に関する基本方針」では、今後50年間で更新費用245億円に対し64億円しか予算が確保できないと試算。今回はスポーツ施設及び庁舎等を重点に、緊急度、利用状況および経費を分析し提言をまとめた。

①駅前町民会館及び町民

センターについて利用率は低く、経費が比較的高い。また、耐震化もなされておらずリスクが高いことから検討すべき優先順位が高い。廃止による代替施設の確保、または改築による延命化等早急な計画作成をすること。

②子育て支援を重要施設とする町において、百合が丘保育園の重要度は高い。しかも緊急度も高いので、早急に移設更新または一色小学校等他施設との複合化を検討すること。

③袖が浦プールは利用率が低く経費も高い。学校プールとして利用している側面もあるが、存続するなら大幅な利用率の向上を図るべきである。できなければ廃止も含め検討すること。

④町庁舎は建設費が非常に高くなると見込まれ、最も重要な施設であることから更新または延命化等、計画を早急に立てること。

教育福祉常任委員会
「身体を動かして健康長寿の町へ」を課題とし



両委員長より提言書を手渡す

て調査検討を行い提言書を提出した。

《提言背景》
文部科学省は平成12年9月に「スポーツ振興基本計画」を策定し、政策目標を掲げた。①生涯スポーツ社会の実現②成人の週1回以上のスポーツ実施率が2人に1人になること。具体的な施策として、全国の各市区町村において少なくとも一つは総合型スポーツクラブを育成するとしている。

●提言
①町は事務局設置場所の確保と県への申請を行い、総合型地域スポーツクラブの設立を支援すること。
②町は設立後もクラブ運営を継続的に支援すること。